カトリック高松教区報

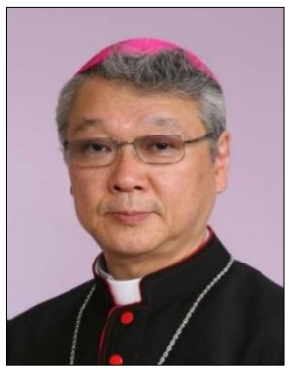
２０１２年３月４日（第１４７号）
発行所　カトリック高松司教区　広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：yousei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉

大切なのは
私達が
何をするのかと
いうことではなく
どれだけの愛を
その行いにこめるかと
いうことです
小さなことも
大きな愛をもって

諏訪榮治郎司教が初の教書発表

こんな教会を目指したい
―高松教区設立５０周年記念に向けて―


諏訪榮治郎司教

諏訪榮治郎司教は『こんな教会を目指したい―高松教区設立50周年記念へ向けて』と題する２０１２年四旬節司教教書を発表した。諏訪司教着任以来初の教書となる。この中で諏訪司教は来年の教区設立50周年に向けて教区優先課題を『地区・ブロックを生きる協力宣教司牧する教会』『青少年の育成』の二本柱とすること

教書はまず昨年開かれた教区宣教大会（シノドス）について述べ、三年間をかけ準備し『どんな教会になりたいか』を問いかけた結果、大会では教区民の協力によって『福音による愛の共同体』『神の民』の姿がひしひしと感じられたと評価し、『私の教会』から『キリストの教会』へと『過ぎ越し』が行われたとする。派遣ミサで表明された

優先課題
生きいきした教会共同体づくりへ
協力宣教司牧広げ青少年を育成

『地区の目標』は今後『具体的に証されていくことになり、そのことが教会共同体をより豊かな福音化へ導く』と期待を寄せる。

『信仰年』共に歩もう

教皇は今年10月11日から1年間を『信仰年』に定めた。教書は『教区宣教大会を経て新たに歩みを始めようとする私たち（高松教区）にとって非常に意味のある年となるでしょう』と述べる。教区の再生と一致の原動力になるのは教皇が願う『キリストとの出会いによる信仰の再発見』だからだ。

『信仰年』を歩む今年、教区の再生と一致をさらに進めるため、教書は教区のあり方（ビジョン）として『意識・養成・組織』の絶え間のない刷新や改善が必要と述べる。この三要素が互いに補完し合いながら共同体の霊性を高め続けてくれるとする。

開かれた福音宣教態勢

このような前提を述べた後、教書はこれからの教区の優先課題を『地区・ブロックを生きる協力宣教司牧する教会』と『青少年の育成』の二本の柱であると宣言する。

『協力宣教司牧態勢』は司祭の減少を理由に考案されたものではなく、教会の本質である『共同体』の姿であると教書は述べる。小教区では担いきれない活動を地区・ブロックレベルで協力して取り組むことで、より開かれたダイナミックな福音宣教する共同体の活動につながる。その推進のため地区・ブロックの再編成や小教区の再配置などにも取り組む必要があるとする。

神学生との集い開催

『青少年の育成』については『教会は人との交わりの豊かな体験を青少年に開かなければなりません』と述べる。青少年を既成の枠組みの中で便利屋として働かせることは、彼らの持つ豊かな可能性を狭めることになる。生き生きとした若者らしい活動や豊かな体験によって、青年たちは『自身のかけがえのない価値、固有の召命』を見出せるようになるのではないかと述べる。

その方策として①地区・ブロックに青少年担当者、チームの設置②教会の枠を超えての活動に理解③巡礼や体験学習、出会いの場づくりを支援④信仰入門コース、若者と聖書講座、黙想会などの企画支援⑤召命担当者と一粒会の支援で『神学生と青少年の集い』開催―などをあげている。教書は青少年の喜びが次の『神の民』となることを祈りながら優先課題としたとする。

『道』活動の中止通達

また現在教区内で一切の活動中止が通達されている新求道共同体『道』について、これまでの「分裂と対立」に至ったことへの真摯な検証と心からの謝罪がないうちは教区との対話はないと述べ、改めて『道』の活動の一切の中止を通達した。

最後に高松教区が取り組むべき課題を述べる。協力宣教司牧、青少年育成を中心に各種養成の実施、召命促進など重要課題を教区、地区、ブロックごとに列記。『来年の教区設立50周年に向けて全エネルギーを注ぎ、教区をあげて取り組む』と決意を表明。そのため教区民の理解と協力、そして祈りを呼びかけ教書を締めくくった。

大船渡ベース開所　地ノ森いこいの家

東北大震災復興支援活動
これからが復興のスタート

２０１２年1月14日（土）岩手県大船渡町に建設を急いでいた東日本大震災復興支援のための「大船渡ベース・地の森憩いの家」の開所式が行われた。開所式を行ったのは大阪教会管区大船渡プロジェクト。管区プロジェクト責任者の諏訪榮治郎司教がローマ訪問中のため京都教区司教大塚司教が代理を務めた。

14日11時から大船渡教会で司教、司祭団20名、修道者、信徒１３０名が集まり、震災で亡くなられた方々の冥福と被災地の復興を祈る共同司式ミサが行われた。大塚京都司教は説教の中でカトリック教会はこれから被災者に寄り添って共に歩む決意を表された。ミサの後「ふれあいタイム」を隣接する海の星幼稚園で行い、地元民を交えて和気あいあいの雰囲気の中、軽食で祝い合った。

続いて午後2時からベースで開所式が行われた。開所式に先立って大震災からこれまで多大な支援活動を展開してきたカリタスジャパンに対し岩手県からカリタスジャパン代表者である菊池新潟司教に感謝状が贈られた。

開会の辞、主催挨拶、県知事からの祝辞代読に続き、建築に携わった方がたにも感謝状が手渡された後テープカットに移り、テープが切られると参加者の拍手が湧きあがった。

寒さ厳しい屋外での写真撮影の後、早速パーティーとなり、その間色々と出し物が入りその場を盛り上げた。中には15歳で日本舞踊の名取りを持つ男子中学生（自身も被災してすべてを失った）が『女形』の舞を披露してくれた。

地のノ森いこいの家

この開所式には、仮設に入っている住民、「地の森八軒街」の仮設店舗の人びととお隣さん、地元の社会福祉協議会、今まで一緒に活動して来たＮＰＯ、ＮＧＯなど、教会関係の人びとを合わせて１５０人ほどが参加し、盛大な開所式となった。

10月からこれまで築いてきた地域や行政、他のボランティア団体の人びととの関わりを大切に、いま日本の教会が一丸となって東北に繋がろう、繋がらせてもらおうとしていることの中に希望を見つけたい。

忘れられない志願期でした

宋　亨根（ソンヒョングン）
高山　徹（あきら）

4月からカトリック神学院へ

いつもお祈りとご支援をありがとうございます。神学校入学にあたり、ご挨拶申し上げます。既にご存知だとは思いますが、宋亨根・高山徹は、４月より、日本カトリック神学院（通称：大神学校）に入学致します。私達は、ここ四国で、恵みの時を過ごさせて頂きました。本当にありがとうございました。生涯忘れえぬ志願期になると確信しています。

「識別は、頭ではなく、現実の生活の中で行う」という溝部脩司教様のお言葉を改めて噛みしめ、ここ四国で沢山の出会い・経験を頂いたことを想い起こしております。皆様と出会えたこと、そして出会えた皆様との交わりが、私達にとって喜びでした。未熟ゆえに至らぬことも多かったかと思います。

その度ごとに、温かい励ましや、時に厳しいご指導を頂きました。どれ程力づけられたことか言い尽せません。

これまで頂いた全てのことに感謝し、これからの糧にさせて頂き、一歩一歩歩んで参ります。４月からは、イム・ワン助祭が司教館で、宋が福岡キャンパスで、ヨセフと高山が東京キャンパスで養成にあずかります。どうか私達一人ひとりの召し出しのためにもお祈り下さい。私達も、皆様のためにお祈りさせて頂きます。それでは、行って参ります！

宋神学生　　高山神学生

はばたき

高齢者人口は２０１１年75歳以上が10％を超え、２０５０年には2.5人に１人が65歳以上という時代になる。教会も例外ではない。どこの教会でも信者は高齢化しており、若い人の姿はまれである。幼い子どもたちを目にすると、希望の象徴のように胸が熱くなるのは私だけではないと思う。

高松教区は「主の声に耳を傾け生涯を捧げて奉仕する司祭、修道者への召命の道を若い世代に力強く呼びかけます」と神に祈っている。

しかし高齢社会は、もうそこにに迫っている。その間、高齢者が果たす役割が問われる。

昨年の大災害の後、作家、ミュージシャンなど多くの人達が「私に出来ること」を問うてきた。「絆」とともに、心に刻む言葉だったと思う。年をとると、人は出来ることと出来ないことがあるのを判然と知らされる。

少し前までは楽にできたこと、あるいは頑張れば出来たことが出来なくなる。無念である。が同時に、若いころには出来なかったことが出来るようになったということはないだろうか。

私についていえば、時間をかけての取りなしの祈り、辛抱強い傾聴は、若い時には決して出来なかったことだ。高齢者の一人として、生かされている限り「私に出来ること」があることを信じたい。

ご復活を待つ四旬節の日々、主よ、僕は聞いております。どうぞお話し下さい、と祈り耳を傾けたい。

小教区紹介

西条教会（愛媛）

いつも子どもたちの声が響く

ＪＲ伊予西条駅から北に延びる駅前通りを３５０メートルほど行き、右手の路地に入ったところに白く教会らしさが眩しい西条教会がある。

敷地内にはテノール歌手・秋川雅史氏も通ったロザリオ学園・西条聖マリア幼稚園があり、日曜日の運動場は信徒の駐車場として解放されている。主日のミサは11時30分からの１つだけだが、お邪魔した日曜日にはミサの前に第１回目の信徒養成講座が開かれていて、西条教会担当司祭であり、前教区典礼委員長の稲毛利之師による典礼講座に信徒11人ほどが参加し、熱心にメモをとっていた。

信仰養成への熱意、特に「みことば」に対する情熱は熱く、毎土曜日夕には西条小教区の定例会として、翌主日ミサの３つの朗読についての「みことばの分かち合い」が行われており、この分かち合い時には子供のそれも同時進行しているという。

教区内の小さな小教区は特に高齢化が目立つ中、ミサ参加者30人弱の半数は子供が占めている。この日は子供と共に捧げるミサが行われ、楽器に合わせて子供たちの伸びやかな聖歌が響き、説教の代わりに未信徒の子供たち向けの易しいお話がなされていた。大人共々笑顔に満ちた教会であり、１つ異彩を放っている。

子供たちの存在感は大きく、毎土曜日の教会学校にはお隣の聖マリア幼稚園卒園児や近所の子どもなど、未信徒の児童などが半数の全体で20名ほども集まり、子供たちの声が響き、希望に満ちている。

聖堂が献堂されて50周年目の２００１年に信徒会館が新築され、毎月１回開催される西条市内キリスト教会朝祷会などが行われ、今年のキリスト教一致祈祷週間の会場ともなった。信徒の方々が口をそろえて誇りとされている西条教会の長所となっているようだ。

谷口広海

ちょっとひといき

詩　海がある

お父さん　お母さん
あなた方の目を見ていると
あなた方の目の中に
海が見えて来る

ぼくの哀しみ
ぼくの苦しみ
みんな柔らげて
包んでくれる

あなた方の目の中には
やさしいマリアという海がある
偉大なイエスという海がある

ひと　戦後40年間教会のため働く

桜町教会　清水　昭（あきら）さん（82歳）

宇和島教会ご出身の清水昭さんは高松教区事務所、桜町教会に終戦後約40年間お勤めになりました。皆さんへの窓口となり、何はともあれ「清水さん、清水さん」と頼られながら、お人柄のため、ＰＴＡの重責も果たされつつ、ご多忙な日々でした。

手先が器用で、私の初聖体記念のロザリオが切れてしまい、それを編み替えて頂いた時の見事な出来栄えに驚いたりもしました。また、蓋が蓑虫の殻を使ってモザイクのように装飾する珍しい技術で作られている可愛い小箱を頂いたこともありました。

清水さんご夫妻

当時被昇天修道院の離れで世話になっていた母が手紙を書くのが好きでしたので、記念切手が発行される度にいつも、何回も列に並んで買ってきて下さっていました。時には郵便局の方から「清水さん！いい加減にして下さい」と、たしなめられたという話もありました。私の母の為にどうも済みませんでした。

九州にいた頃に私は時々、子どもたちを連れて、母の下に行っていました。そんな折、末の娘が腹痛を訴えたことがありました。清水さんは即、娘を車で小児科医院へ担ぎこんで下さり、事なきを得ました。今、３女の母となっているその娘は「清水さんは命の恩人」と私共々感謝しています。「清水さんの仇名は『聖人』よ」と、母がいつも言っていたのを、よく思い出します。感謝の念でいっぱいです。

宇和島教会　中平寵子

『典礼奉仕』のために ⑮

高松教区典礼委員長　レナト・フィリッピニ

反面教師の態度から学ぶ

司祭は、日曜日だけではなく毎日、ミサをたてます。いくら熱心に心をこめてミサを捧げていても、毎日、毎日曜日を重ねてくると、必ずいくつかの癖が出て来てしまいます。私が神学生の時、ミサの授業で１人ひとりが模擬ミサを録画して、互いに評価したり、問題点を指摘したりしていました。私は神父になって今年で15年目になりまが、運転免許と同じように数年ごとに自分がミサを立てるビデオを信徒たちと一緒に観て評価出来ればなあと思っています。ひとりの司祭として、自分のやり方を振り返ってみると、いくつかの癖に気づきます。反面教師として、どなたかの役に立てれば幸いです。

１・十字架の挨拶
「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが皆さんと共に」「また司祭とともに」という挨拶を会衆とかわした後「おはようございます」や説教の最初に「皆さんこんにちは」といった世間的な挨拶を入れないように。

２・２つのことを同時に行わないこと。たとえば、会衆が「感謝の賛歌」を歌っている間に奉献文を探していたりすると、司祭が慌てて式を進行させているという印象を与えてしまい典礼全体の落ちついた雰囲気を壊してしまう。

３・いつも第２奉献文だけを唱えないように。奉献文は、４つあり、日曜日は他の奉献文を使うように総則は勧めている。

４・沈黙を大切にすること。「祈りましょう」という招きの後、聖書朗読の後、答唱詩篇の後、説教の後、聖体拝領の後、共同体が神の恵みを思いめぐらすための時間を大切に。

５・平和の挨拶を不適切に行わないこと。聖体拝領前に互いに和解出来るチャンスです。平和の挨拶が終わるのを確認してからパンを割るようにする。そうしないと共同体は互いに挨拶をする機会を奪われる。逆に、時間を使いすぎないこと（典礼を中断させる）。祭壇から降りて挨拶を交わす間、信徒たちは司祭のパフォーマンスを見ることになる。司祭は侍者たちと平和の挨拶を交わすように勧められている。信徒たちが周りの人々と充分に挨拶できる時間を作ることが大事。

ここまで読んでいただいたら、さらにたくさん「反面教師の態度」が浮かんできたかもしれません。私も１人の司祭として、ミサの在り方が向上するよう努めていきたいと思います。まず意識を持って気づくことと、「癖」について何かを言われたら、素直に認めて、直すこと。司祭の癖について、信徒側からの期待と希望があれば、２人だけの所で丁寧に気づかせてほしい。

司祭と信徒たちが共に協力して、よりよい美しい典礼を目指しましょう。

◇聖書から何を学ぶのか◇　江ノ口教会で「女性の会」大会

去る1月14日（土）高知市の江ノ口教会において、第３回「女性の会大会」が開催された。晴天に恵まれ、四国４県の教会から１１４名の女性（数人の男性）信徒、中には求道者の方、目の不自由な方も参加して下さり、非常に有意義な大会となった。今年のテーマは「聖書から―女性の使命―マタイ福音書の系図に登場する女性」と題して、カトリック中央協議会社会福音化推進部のシスター石川治子氏を講師にお迎えした。

シスターは最初に「社会とかかわるということで心がけていることはいつも聖書に戻り、聖書が何を教えているかを常に考えながら仕事をしている」と語られ、マタイ福音書に名前が登場する４名の女性、タマル、ラハブ、ルツ、ウリアの妻、そしてマリアについて、系図で面々と続く男性の名前にこれらの女性が非連続で出て来るこの女性たちの役割やメッセージを読み取ることが出来ること、聖書を読むときの女性の視点を大切にしながら、今の私に神様がどんなメッセージを下さっているのかを求めて「神さまがなさりたい業に私がどのように参加できるのかを、わからせて下さい」と祈っていくことが大切なことと、バチカン公会議50周年を迎える日本の教会の歩みについても触れられ、２月末発行のカトリック中央協議会の冊子「教会と社会」も紹介された。一部では何故、教会は社会問題にかかわるのか。二部では具体的に様々な質問に答える形をとっていて、政教分離、正義と平和、沖縄問題、死刑制度、原発などに対する教会の関わりが、わかりやすく書かれているとのことです。

午後はグループに分かれて「神様は私達がどのように信仰を生きることを望まれているか」について分かち合った。お元気で過ごされている溝部司教様との再会を喜び、14時からの溝部司教様、オブレート会のイル神父様とブルゴアン神父様による感謝の祭儀の中でこの大会のお世話をして下さった高知地区の皆様にも感謝しながらこの大会を締めくくった。

シスター高松常子

若　い　力

堅信の勉強をして感じたこと

江ノ口教会　前田 恵莉亜

私は堅信の意味があまりよく分かっていませんでした。母に「もうそろそろ堅信を受けようか？」と言われて、めんどくさいなぁと思いながらも、須崎から教会がある高知まで来ていました。

前列左から２人目　前田 恵莉亜さん

今まで私は神さまなんて居るか居ないか分からんじゃん！と思っていて、親も片方信者じゃないし、あからさまに機嫌が悪いときは、教会に行きたくないと、泣きながら訴えたこともありました。ちょっとした反抗期でした。でも堅信の勉強をしているうちに、神さまって本当は居るかもしれないと、思うようになりました。勉強を４回受けて、秘跡は７つもあるとか、聖霊ってなんだろう？とか、結婚がなんで秘跡に入るんだろうとか、神父さまのことなどを聞いたりしてきました。

今度のことで感じたことは、私は今まで自分にあまり自信がなくて、顔も性格も良くなくて、変わってしまいたいなと思っていました。でもだれにでも特技があるし、いけないところ(短所)もあり、それでもそれを抱えて生きているんだと考えるようになりました。自分にはよい音感があるし、みんなの(友だちの)なやみごとを真剣に聴けることとかがあります。相談されたあとに「恵莉亜に相談して良かった！ありがとう！」と言われてうれしかったことがあります。この長所を人のために使っていきたいと思います。

大船渡ベースで貴重な体験をしました　被災者のふとした一言

江ノ口教会　秋山奉裕（ともひろ）

始めにボランティアに参加するにあたりご尽力くださった皆様および支援して頂いた高松教区サポートセンターに心から感謝申し上げます。

私は大阪教会管区の大船渡ベースキャンプ「地ノ森いこいの家」で20日間ボランティア活動をしてきました。被災地でまず目にしたのは壊滅した街の姿でした。打ち上げられた漁船、剥き出しになった基礎、寸断されたままの線路。本当に震災から11ヶ月が経過しているのかと目を疑いたくなりました。復興ではなく、復旧作業が今なお行われているのです。それだけ今回の津波のもたらした被害が甚大だったのだと改めて痛感させられました。

ボランティア活動を通して本当に様々なことを経験しました。被災地の現状、課題、地域の方との交流、全国から集まられたボランティアとの出会い、全てのことを書き記すことは出来ませんが、自分なりに見たもの感じたことを少しでもお伝え出来ればと思います。

ある仮設住宅で足が不自由な方に車椅子を届けた時のことです。昼間だったのですが、80歳前後の独り暮らしのご老人がベッドで寝ておられ、声をかけても生気が無く反応が薄かった印象がありました。ご老人と話をしながら車椅子に乗って頂き感触を確かめて貰いました。時間にして10数分だったと思います。先ほどまで反応の薄かったそのご老人に急に生気がもどり、生き生きし始められたのです。その瞬間、私はご老人がどのような生活をされているのかが手に取るように解りました。普段まったくと言ってよいほど周りの人々との交流が無かったのです。

秋山　奉裕さん

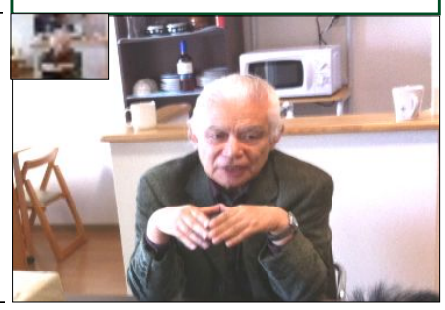
この仮設住宅では2週間に1度だけお茶をする機会を設けているとのことです。考えてみてください。ご高齢の方が１人で生活をし、見ず知らず同士の人間が集められた仮設で暮らしているのです。どれだけ心細く侘しいことか。地元の方の話しでは高齢者の独り暮らしは珍しくないそうです。

２つ目はある漁港へ漁具作りのボランティアに行った時のことです。漁具作りを手伝っていると一人の男性が来られて「ありがとうございます」と深々と頭を下げられるのです。「大したことは出来ていませんが」と答えると、「あなたたちボランティアは大したことは出来ていないと言いますが、ボランティアの方が手伝ってくれるから私たちは海に出て本来の仕事が出来ているのです。ボランティアの方が１人来て頂けるだけで復興のスピードは２倍にもなるんですよ」と笑って答えてくれました。ボランティア活動に対して無力感を感じていた時でもあり、その言葉に救われた思いです。

今回被災地を訪れて本当に貴重な体験をしました。震災から１年を経て、遠方の地、日常を取り戻した地域では徐々に震災の記憶が薄らいでいるように感じます。復興にはまだまだ時間も人も足りません。改めて被災者のために祈り、被災直後の助け合った気持ちを思い出しながら復興までの長い道のりを支えあって欲しいと心から願っています。

地域共同体繋ぐ中心拠点に　山浦病院長　ベース開所で語る

山浦 玄嗣（やまうら はるつぐ）
岩手県大船渡市出身の医師。
山浦医院病院長。ケセン語の提唱者として有名。
カトリック大船渡教会信徒であり、キリスト教関連の著書も多数。
「ケセン語訳聖書」はギリシア語の原典から翻訳し、ローマ教皇庁に献上された。



―大船渡ベース立ち上げには色々と助言頂きありがとうございます。やっとベースが完成し、これから活動が本格化すると思いますが、大船渡ベースへはどういう想いをお持ちですか。

この地域の人たちは家も財産も流されて集まる場所もありません。昔からの地域共同体がばらばらにならないように、ここがこの共同体を繋ぐ中心拠点になってほしい。

チリ地震津波の時やこれまで、外からの支援は殆ど有りませんでした。当時、唯一ここの教会で司牧しておられたベトレヘム宣教会のスイス人の神父様が、故国スイスの信徒に援助を仰いで、お風呂と宿泊所を備えた集会所を、市内に４つ建て「いこいの家」として住民に開放した歴史があります。それが今では公民館として利用されています。今回もカトリック教会が市民の一人としてここに根付き、末永く付き合っていければと期待しています。

―そうですね。これが市民とカトリック教会との結びつきを強くし、共に歩む教会の姿が市民に受け入れられることを願いたいですね。

もうひとつ新しい状況があります。フィリピンからお嫁に来た方がたくさんいます。夫が未信徒ということもあってこれまでなかなか連絡が取れずにいました。奇しくも今回の津波がお互いを連帯させ集めるきっかけになりました。

ですから彼らのためのベースとしての展開も一つの目的になります。過疎化の真っ只中、次の世代を受け継ぐ彼らの笑顔と、その子どもたちが希望を与えてくれます。

―辛い中にも明るい展望が見えてきているようですね。もう一つこれまでの人生の中でこの津波が山浦氏にもたらしたものがあるとするならば、それは何でしょうか。

私達は津波の歴史を生きて来ました。80歳になる方々は3度の津波を経験し、3度とも家を流された人もいます。辛い経験ではあるけれども、来るべきものが来ただけということです。「どうして神様はこんなひどいことをするの」というような考え方は気仙に生きる人にはありません。

―地球には地球の営みがありますから、私たちはその地球と共存出来る道を求めなければならないということですね。

そうです。これは神の創造の一環であり、創造はまだ続いています。人はいずれは死にます。ガンであれ災害であれ人は神様のみ手の中にあります。取り立てて神様に不平を言う筋合いはないのです。マスコミはそういって、神に責任を求める論調で迫ってきますが、気仙人には愚問としか言いようがありません。

東北の人間は辛抱強いと言われていますが、東北の人が言う「辛抱」というのは、いつまでも際限なくじっとしていることではなく、苦難を乗り越えて新しいものを作り上げていくということです。ですから苦労して家を建てた時「よく辛抱したね」といって祝福します。我々はまた辛抱しますよ。

―本当に含蓄あるお話を頂き、ありがとうございました。

聞き手　谷口広海

「福島の子ども達、香川へおいで」プロジェクトに参加して

桜町教会では夏休みに続いて冬休みも福島の子ども達を香川へ招く活動に参加しました。

放射能被ばくに脅えながら子どもを育てざるを得ない方々がどんな思いで日々を過ごしておられるか。　招きに応えて、遠い四国の地に応募されたのは40名定員に対し、１６０余名。たとえ10日余りでも危険な福島を離れたいのだという事を肌で感じました。

夏休みには五色台の自然の家に招いたのですが、冬休みは、さぬき市の

子どもたちの笑顔が救い

「みろく公園」のログハウスにお招きしました。

地元の方々や青年達、多くのボランティアの奉仕で無事、全日程を終え、大変喜ばれ、1月8日朝、福島へ帰られました。

桜町教会は、1月4日、5日の夕食作りをマリア会の20余名により奉仕しました。材料の買出し、教会の厨房での下ごしらえ、現地での仕上げと手順よく行われました。4日は、パエリア、スペインオムレツ、スープ、5日は牛丼、ナムル、味噌汁です。

また、子ども達の見守りや、対応にはマリア幼稚園の先生方や、信徒が2日間奉仕しました。

現地の人たちに出会い、交流することのできる貴重な機会を与えられたことを本当に神に感謝しています。皆様からの献金は、夏と冬合わせて30万円余りをプロジェクトに届けることが出来ました。

桜町教会　米澤南美子

食べる青唐辛子　絶賛好評発売中！
株式会社サンコウフーズ
〒761-4421 香川県小豆郡小豆島町苗羽甲 2204
TEL 0879-82-0430　FAX 0879-82-1102
URL http://sankou-foods.com
E-mail shodoshima@sankou-foods.com

住環境福祉コーディネーターが家造り
福祉住環境リフォーム
高齢者・障害者に配慮したバリアフリーの住宅
福祉住環境リフォーム・新築・増改築工事・設計施工
有限会社リフォームオオタ
代表取締役　太田　修
〒763-0092　丸亀市川西町南449番地3　TEL (0877) 28-0881・FAX (0877) 28-0190
E-mail o-chandazo@theia.ccn.ne.jp　URL http://www.reform-oota.co.jp

医療法人社団聖心会　阪本病院
看護師・准看護師
随時募集中です！
院内保育園開設
ご連絡をお待ちしています。
連絡先（事務局）
0120-770-315

医療のともしび（31）

医学生の時にマザー・テレサがノーベル平和賞を受賞しました。受洗して間もないわたしには目標となりあこがれとなりました。医者になってインドのマザーハウスにボランティアに行き、マザーテレサに「あなたのカルカッタを日本でさがしなさい」といわれてから、小児科医として接する障害児たちが私のカルカッタとなりました。今、やっとマザーテレサとの約束が形になろうとしています。医学生の時にカトリックの信仰の恵みをいただいたことを感謝しています。

小児科医　岡澤朋子

愛媛新聞　2012年(平成24年)1月6日　金曜日

障害児の幸せ応援

愛南の医師 夢の児童デイ開設へ

愛南町御荘平城の小児科医岡沢朋子さん(53)が4月、家族の後押しを受け、町内に児童デイサービス施設を開設する。これまで町内になかった小学生から20歳までを対象にした施設で、小児科医となって四半世紀抱き続けた夢がようやく実現する。

児童デイは発達に心配のある子どもや、障害がある子どもを対象に通所療育を行う施設。町内には小学生までの施設しかなく、小学校卒業後は放課後や夏休みなどに行く場所がなかった。

岡沢さんが開設する施設は「CASA JOHANNE（カサ・ヨハネ）」。2009年に廃園となった菊川保育所（同町御荘菊川）を町から買い取り活用する。スタッフは常勤3、パート1の計4人で、特別な訓練は行わず、日常生活を送るための工夫が身につくように指導する方針だ。

きっかけは小児科医になって2年目に見た児童デイ施設の運動会。1カ月検診で自身が障害があると診断した子が、頭を振りながら力走、笑顔で抱き止める祖父母の姿に感動した。「障害があっても幸せになれるんだ」。専門志望を小児神経に変更し、発達障害などの子どもたちを見続けてきた。

施設開設にはスタッフ確保が壁となっていたが、長男の貴矢さん(31)と夫のエディさん(66)が常勤スタッフとなることで後押し。10年来の友人の黒島ちえ子さん(63)も沖縄から移住し運営を支えることになった。

岡沢さんは「風邪などと違い、障害は完治することができず無力感を覚えてきた。施設開設で自分の小児医療がやっと完成できると思います」と話す。

現在、県に指定を申請中で、施設は4月1日オープン予定。定員10人でスタートする。（白川英樹）

自身のクリニックで開いている療育を見守る岡沢さん（中央）

教区スケジュール

3月
- 3日（土）　（拡大）宣教司牧評議会（愛媛）15:00
- 4日（日）四旬節第2主日（拡大）宣教司牧評議会（愛媛）～15:00
- 5日（月）司祭集会準備会in坂出
- 11日（日）四旬節第3主日「東日本大震災1周年」
- 14日（水）司祭評議会・春の司祭集会in北条カタリナ・セミナーハウス
- 15日（木）　春の司祭集会（2日目）
- 18日（日）四旬節第4主日
- 25日（日）四旬節第5主日

4月
- 1日（日）受難の主日（枝の主日）
- 4日（水）聖水曜日（山下師命日）聖香油ミサ11:00
- 5日（木）聖木曜日
- 6日（金）聖金曜日
- 7日（土）聖土曜日
- 8日（日）主の復活の祝日
- 15日（日）復活節第2主日　（神のいつくしみの主日）
- 21日（土）教区子ども&中高生の集い（香川 ～22日）
- 22日（日）復活節第3主日
- 23日（月）広島・高松教区司祭交流会in岡山
- 25日（水）聖マルコ福音記者
- 29日（日）復活節第4主日

3月11日は東北大震災１周年になります。行方不明の方や亡くなった方々のご冥福を祈りましょう。

新　刊　書　籍

■なぜ教会は社会問題に関わるのかQ＆A

「なぜ教会が世俗の問題にかかわらねばならないのか」との疑問を抱く信徒は数多くいます。

本書は、教会が福音化のため社会問題にかかわる意味を信徒に説く司教の責任の一端を果たすべく編まれました。

Q＆A形式を採用し、信徒が現実に抱いている疑問に、可能な限り応えることを目指しています。

B６版並製144ページ
定価630円（税5%込）
カトリック中央協議会発行

■『なぜ聖書は奇跡物語を語るのか』

多くの人が聖書の描く奇跡物語に抵抗を感じている。しかし、このような話が聖書に書かれていることには意味があるのではないだろうか。奇跡物語を理解するためにはどう考えたらいいのだろうか「第一講：聖書という本」「第二講：自然奇跡」「第三講：癒しの奇跡」「第四講：悪霊追放」の四講話を収録。

雨宮　慧　著
四六判・158頁定価
1260円

告　知　板

東日本大震災復興支援
チャリティーコンサート
2012年3月11日（日）
- カトリック桜町教会聖堂
  14:30開演　14:00開場
  大人　2000円
  高校生以下1000円
- 道後教会聖堂
  13:00開演
  コンサートは無料ですが
  バザーにご参加ください

3月11日 ― 東日本大震災1周年迎え

被災者支援へ　道後教会へ集まろう

祈願ミサ・支援バザー・鎮魂のコンサート

祈願ミサ10:30～
安らかに暮らせる日を
支援バザー11:30～
美味しい「特製カレー」
伝統の味「マーマレード」
鎮魂のコンサート13:00～
静けさと祈りに満ちた
被災者へのレクイエム

被災者の方々を支え励ましそうと本教会実行委員会では多くの方々の参加を呼び掛けています

クロスワードパズル

タテ、ヨコのカギに当てはまる言葉を考えましょう。固有名詞表記は聖書新共同訳参照。

タテのカギ
①聖書には、マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる4つの○○○○○書が収録されている。「神のよき知らせ」という意味。
③ ○○○がイエスに、「お前がユダヤ人の王なのか」と尋問するとイエスは、・・・（ルカ23章）
④ 有能な妻は夫の○○○○○。恥をもたらす妻は夫の骨の腐れ。（箴言12章）
⑤ ○○○：イエスが青年時代までを過ごした街。
⑥ 紀元前5世紀の中頃、エズラと○○○○○がエルサレムに帰国し律法を中心とする共同体の再生に取り組んだ。この頃から律法主義的なユダヤ教が誕生する。
⑧ サムエル記：ハンナは○○の町へ行って「万軍の主よ、男の子を授けてくださいますなら、その子の一生を主にお捧げします」（サムエル記上１）
⑩ ○○○という名前のキレネ（今のリビア）人にイエスの十字架を担がせた。（マタイ27章、ルカ23章）
⑫ 最初の殉教者○○○○○は「主よ、この罪を彼らに負　わせないでください」この言葉を最後に息を引きとった。（使徒言行録7章）
⑬ 世界宗教：民族をこえて世界で広く信仰されている宗教。○○○○教、イスラム教、仏教をいう。
⑭ ○○○：イエスの母
⑯ サウロは地に倒れ「サウル、サウル、なぜわたしを迫害するのか」と呼びかける声を聞いた。サウロという名前はヘブライ語の読みでギリシャ語では○○○となる。（使徒言行録9章）

ヨコのカギ
② 聖書成立などの謎を解くカギといわれている死海文書は1947年○○○○で発見されている。イザヤ書などの聖書の写本などがあり、イエスの時代の少し前からイエスの処刑のすぐ後の頃のものといわれている。
④ ヤコブの子孫がモーセに導かれてエジプトを脱出し、モーセの後継ヨシュアが○○○の地を次々と獲得した。ギリシャ人は○○○を「パレスチナ」（ペリシテ人の地）と呼んだ。
⑥ 紀元後64年ローマ市で大火。皇帝○○はキリスト教徒を迫害する。この頃ペトロはローマで殉教。68年○○自殺。
⑦ 主の天使が夢でヨセフに現われて言った。「・・・○○○がこの子を探しだして殺そうとしている・・・」（マタイ2章）
⑨ ヘブライ語で「まことに」「たしかに」、後に「かくあれ」の意。キリスト教の祈りの終わりに唱える言葉。
⑪ ○○○○○○○教会は世界に福音を発信する拠点となる。パウロを中心とする世界伝道は合計３回にわたり
○○○○○○○教会を出発する。（使徒言行録13章）
⑮ ローマ帝国の初代皇帝○○○○○ウスがすべてのユダヤ人に録登録の勅令を発した。（ルカ2章）

1	■	3	4	5		6		■
2					■		■	■
	■				■		■	14
	■	■		12	■		■	
■	8	11					13	
7			10		16	■		■
■	■	■		15				
9						■		■

高松サポートセンター（ＴＳＣ）だより

『お米券』キャンペーン続行中!!

東日本大震災から1周年を迎えます。未だに4000人程の方の行方も分からず、捜索も続いているとの報道がなされています。私達は日本のみならず世界中が支援復興に力を注いだことを知っていますが、やはり時間の壁は厚く支援活動、ボランティアも減少傾向にあります。この機を借り改めて、細くとも長く寄り添って行きたいと願っているＴＳＣへ、なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。1月14日の大船渡ベース開所式の折には額面102万5000円分のお米券を贈ることが出来、大変喜んでい頂きました。キャンペーンは2月を目途としていましたが、これからも続けて参りますので宜しくお願い致します。

ボランティア申込受付中!!

ボランティアは支援の大きな柱です。この先季節も次第に暖かくなって参ります。皆様の積極的なご応募を心から期待しています。

2月11日の活動　「お茶っことバザー」
本日は、シェフの方を迎えてお菓子作りを行いました～。20名近い方に来訪して頂き嬉しかったです。
バレンタインデーも近いということで、チョコ尽くしでした(*^▽^*)　（大船渡ベース　地ノ森いこいの家より）

編集後記
２月22日の灰の水曜日から四旬節に入りました。
これまで東日本大震災関連でクリスマス愛の献金など、ご協力をお願いしてきました。
四旬節も隣人愛と自らの回心の証となる四旬節献金などがあります。これらのよき準備を通して主のご復活をお迎え出来れば と思います。

聖ドミニコ宣教修道女会

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園